

総合計画体系	政策No. 4	政策名	心豊かな人と文化をはぐくむまちの形成	施策主管課	教育委員会 文化財課
	施策No. 20	施策名	歴史・伝統文化の振興	施策主管課長名	塩澤 秀子
施策関連課名		生涯学習課			

1 施策の目的と指標

<p>① 対象(誰、何を対象としているのか) * 人や自然資源等</p> <p>市民 市内の指定、登録文化財・埋蔵文化財・その他の文化財</p>	→	<p>③ 対象指標(対象の大きさを表す指標) * 数字は記入しない</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A 市人口</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>B 指定、登録文化財・埋蔵文化財</td> <td>件</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	名称	単位	A 市人口	人	B 指定、登録文化財・埋蔵文化財	件	C					
名称	単位													
A 市人口	人													
B 指定、登録文化財・埋蔵文化財	件													
C														
<p>② 意図(この施策によって対象をどう変えるのか)</p> <p>市民が、ふるさとの歴史を知り、誇りに思い、市内の歴史的資源を、新たな地域文化創造の糧としてもらえるようになる。 市民共有の財産である市内の歴史的資源を、良好な形で次代へ伝える。</p>	→	<p>④ まちづくり指標(意図の達成度を表す指標) * 数字は記入しない</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A 市内の文化財や伝統芸能の保護や活用に関する満足度</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>B 市内の歴史的資源を、守り伝えたいと回答した市民の割合</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>C 指定文化財等がき損・破壊・盗難等がなく、適切に維持された件数</td> <td>件</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td></td> </tr> <tr> <td>E</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	名称	単位	A 市内の文化財や伝統芸能の保護や活用に関する満足度	%	B 市内の歴史的資源を、守り伝えたいと回答した市民の割合	%	C 指定文化財等がき損・破壊・盗難等がなく、適切に維持された件数	件	D		E	
名称	単位													
A 市内の文化財や伝統芸能の保護や活用に関する満足度	%													
B 市内の歴史的資源を、守り伝えたいと回答した市民の割合	%													
C 指定文化財等がき損・破壊・盗難等がなく、適切に維持された件数	件													
D														
E														
<p>・まちづくり指標設定の考え方(理由、数式も) ・まちづくり指標の測定規格(手段はアンケートか、統計か)</p> <p>A:文化財の保護に関する市民の評価を示す。【市民アンケートの「文化財や伝統芸能の保護や継承活動について、満足していますか?」において、「満足している」「やや満足している」と回答した人の割合】 B:歴史的・文化的資産への市民の関心を示す。【市民アンケートの「市の文化財や伝統文化を地域の宝として次世代に伝えていくことは重要だと思いますか?」において、「思う」「まあまあ思う」と回答した人の割合】 C:文化財等の保存に関する成果を示す。【市内に所在する指定文化財及び埋蔵文化財の件数】</p>														

2 指標等の推移

指標名	単位	数値区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
対象指標	A	人	見込み値 72,963	72,644	72,322	72,001	71,680	71,359	71,038
	B	件	見込み値 633	633	633				
	C		見込み値 636	637	633	633	633	633	633
まちづくり指標	A	%	目標値 32.8	未設定	34.4	34.8	35.2	35.6	36.0
	B	%	目標値 79.8	未設定	80.4	80.8	81.2	81.6	82.0
	C	件	目標値 634	633	633	633	633	633	633
	D		目標値						
	E		目標値						
関連事業本数			23	24	25	25			
関連事業予算額(単位:千円)			40,969	51,674	54,238	46,255	0	0	0
(予算額の内訳)	国庫支出金		0	0	0	0			
	県支出金		10,084	14,617	11,907	9,641			
	地方債		0	0	0	0			
	その他		17,527	19,116	19,767	20,519			
一般財源			13,358	17,941	22,564	16,095			

<p>目標値の設定の根拠(前提条件や考え方等)</p>	<p>A: 現況値から5年間で約2%の増加を見込み設定 B: 地域の文化財についての周知活動を推進し5年間で約2%の増加を見込み設定 C: 指定文化財等の全てが適切に維持されていることを目標値とする</p>
-----------------------------	---

### 3 評価結果

#### 施策の有効性評価

##### ① 目標達成度評価（目標値と実績値との比較）

- 目標値より高い実績値だった
- 目標値どおりの実績値だった
- 目標値より低い実績値だった

##### ※左記の理由

指定文化財については、特に樹木について、生育状況等の悪化がみられ、管理者と対応を協議している。経費面ではなく、助言指導が現状である。指定されていない文化財等も管理上の問題で失われていく現状があり今回のアンケート結果につながったとも考えられる。埋蔵文化財については、開発行為等に先立つ試掘確認調査等が適切に実施されており、指定文化財等が棄損、破壊、盗難等はなく、適切に維持された。地域文化発信の拠点としての重要文化財安藤家住宅や、ふるさと文化伝承館の入館者、活用者数も伸びており、教育普及活動も、例年どおり市民のニーズに応え実施してきた。アンケート結果は、目標値より低い実績値であったが、端的に判断せず注視していく必要がある。

##### ② 時系列比較（過去5ヶ年の比較）

- 成果がかなり向上した
- 成果がどちらかと言えば向上した
- 成果はほとんど変わらない（横ばい状態）
- 成果がどちらかと言えば低下した
- 成果がかなり低下した

##### ※左記の理由

既存の歴史的・文化的資産の保全を図りながら、新たな文化財の掘り起こしを行ってきた。また、これを市民に分りやすく提示するために、学校現場や地域における教育普及活動に加え、文化財Mナビ、MナビARシステムの開発など、発信方法も工夫した。重要文化財安藤家住宅やふるさと文化伝承館のイベント内容の工夫等、活用も進めてきた。これが市民アンケートの数字にも表れつつある。しかし、まだまだ絶対値としては低く、向上の余地は大きい。

##### ③ 他自治体との成果実績値の比較

- かなり高い成果水準である
- どちらかと言えば高い成果水準である
- ほぼ同水準である
- どちらかと言えば低い成果水準である
- かなり低い成果水準である

##### ※左記の理由

市内のさまざまな歴史や文化財を学校現場や地域にわかりやすく伝える教育普及事業数は、平成27年度では220件を超えるなど県内外の他自治体と比較しても非常に多い。また多くの事業は、学校、都市計画課など他課、他市町村、市内NPO、社会福祉協議会ほか地域住民と連携を重視し実施してきた。さらに、テーマごとにまとめた文化財マップ(8種類)やガイドブック(4種類)、最新のデジタル技術を応用したMナビARなどを作成し、他自治体と比べてもより多様な市民の要望に対応できるような情報発信を行っている。このように本市の活動は市民の意識に訴えかけているものであり、「文化財や伝統文化を次世代に伝えていく事は重要だ」という調査では、79.2%の市民が肯定をしている。新たに、鋳物師屋遺跡の土偶のキャラクター「子宝の女神ラヴィ」が全国土偶キャラ選手権に出演し、優勝したことを、文化財に親しみをもちてもらおうきっかけとし、広くPRした。小学生を含め広く市民への普及活動に努めているので、将来へ向けての礎を築いている状況といえ、成果が出ていると考える。

##### ④ 住民の期待する成果水準との比較

- かなり高い成果水準である
- どちらかと言えば高い成果水準である
- ほぼ同水準である
- どちらかと言えば低い成果水準である
- かなり低い成果水準である

##### ※左記の理由

最新の市民アンケートでは、市の行う文化財や伝統芸能の保護や継承活動についての市民の満足度は前回比2.7ポイント減となっている。一方で、不満足も1.2ポイント減少しており、「どちらともいえない」といったいわば無関心層の減少も認められる。これは、これまでの施策により、市民が市の歴史的・文化的資産の価値を知り、あるいは再認識したことによって、改めて市の行う施策へのニーズや要求度が高まりつつあるものと捉えることもできる。あくまでも満足度は33.2%と高い水準であるとはいえない。

### 4 まとめ

#### 施策の課題抽出とその課題解決（成果向上）の方向性と具体的な取組内容

施策の課題抽出	課題解決の方向性	具体的な課題解決・改善内容
市内の地域の歴史的、文化的資産に気づき、保護し、また史跡探索や伝統芸能の体験活動を行うなど、その資源を積極的に活用し、保護しようとする市民の数が少ない。	市民が市の歴史的・文化的資産の価値をさらに知り、ユニークなまちづくりの素材となりうる市民共有の財産であると再認識してもらう。また、それを実際に活用してもらう。歴史的・文化的資源を市民自らが守っていこうという意識をもつ市民を増やす。	南アルプス市の風土を象徴し、全国的にもユニークな史跡「御勅使川旧堤防」の価値を保全し、よりわかりやすく提示するよう整備していく。市民とともに、地域の歴史的・文化的資産の更なる掘り起こしを行い、さまざまな形でまちづくりの資産として市内外に向けて活用していく、ふるさとまるまる博物館（フィールドミュージアム）（1調査研究、2維持管理、3公開活用）の基本方針の決定をし、本格実施に向け準備を進める。「子宝の女神ラヴィ」の更なる活用を行い、文化財をより身近に感じてもらう手段とする。